

## コラム30:ミツバチの話

( ' 14・2・14 )

孤独な農業人の私の所に「助っ人」の大群がやってきました。その数、3000！始めて3年目にし  
て、ミツバチの力を借りることにしたのです。昨年の11月初めの事です。それから私のイチゴ栽培  
は変わりました。と言うより変わらざるを得なかった、と言うべきでしょう。この「ミツバチさん」たちのこ  
とですが、かなりの寒がりりで、暑がりなのです。私のビニールハウスには内張りのみで、加温設備  
はありません。ですから、今朝のように冷え込むと、ハウス内の温度は5度。冷え込みが予想され  
る時は、家庭用の石油ストーブを炊きますが、効果は2度程度の上昇ぐらいですかね。

「働きバチさん」の出勤時間は、午前10時頃、ただし  
ハウス内が20度以上の暖かい時のみ。曇りや雨ふり  
の時にはハウスの中でも、外気と同じ10度程度です  
ので、寒いので欠勤です。夕方は3時から4時頃にな  
ると温度が下がりますから退社時間です。いつの間  
にか巣箱に入って、いなくなっています。中には5時ご  
ろまで「残業勤務」をしている仕事熱心(?)なのもいま  
すがね。冬場のハウスの中は日照があれば、30度以  
上にもなりますし、曇ればすぐに10度位に下がります。  
ミツバチは暑くなると、巣箱から大量に出てきてハウス  
の上で飛び回りますし、寒くなると巣箱の中に入ってし  
まいます。20度を少し超えたあたりが適温のようで、温  
度管理に気を使いますね。



ミツバチについて、もう一つ気を付けなくてはいけないのは消毒です。私の作っている「紅ほっ  
ぺ」という品種は、糖度が高く大きな実がなるのですが、病気に弱いらしいのです。それゆえ昨年  
は、1月に入って「灰カビ病」の消毒を2回しています。もちろん、比較的弱い薬を使ったり、その後  
では1-2日は実を取らないなどの配慮はするわけです。しかし、今年はそんなわけにはいきません。  
彼らは薬の匂いにとても敏感で、かつ弱いのです。農薬の選択や使用法を間違えると、巣箱から出  
てこなくなったり、最悪の場合は全滅ということもあるらしいのです。ですから、彼らと初めて付き合  
う今年は、内心恐る恐るの状態ですね。



最初にイチゴ栽培用のミツバチについて聞いたときは  
最少単位が三千匹ということなので、受粉作業には効  
果的とは聞いても、私のような零細な生産者には無理  
じゃあないかと感じました。150㎡程度のハウスに、そん  
な数のハチが飛び回るのを想像したのです。しかし、  
実際に農家に行ってみると、全く違っていました。ほと  
んど飛んでいないのですよ。聞いてみると「働きバチ」  
のほんの一部が出てくるだけで、実際にハウスで動い  
ているのは、5-6匹いれば大丈夫とのことでした。

ミツバチは、情報を伝達したり、集団の中での意志決定する能力までもった、高度な社会生活を  
営む生物のようです。アメリカにおいて、大学の教授会の民主的運営の方法や、戦争の際の指導  
者の判断ミスまでも、ミツバチの社会から学ぶことができる、という内容の本まで出ているそうです。

巣箱の中には、一匹の女王蜂を中心に、少数の「交尾担当」のオス、そして残り的大勢のメスの「働きバチ」がおり、それぞれ育児や清掃や警護、そして採蜜などの担当に分かれています。一生懸命に蜜を求めて、イチゴの花を飛び回っているのは、この中の採蜜(食料係)の「働きバチさん」だったというわけです。



彼らが働いている様子をじっと観察してみると、意外なことに気づきます。大きな花よりも、小さな花の方がはるかに長く居るのです。大きな花に止まっても、すぐに他に飛び立ちますが、小さな開き始めたばかりの花には、入り込んで一分以上もそこで動いています。時には二匹が争うようにして、花の中で懸命にもがいています。見ていると本当にカワイイですし、癒されますね。

### 蜜蜂が フワリフワリと イチゴ花

ミツバチが我がハウスに来園して一番驚いたのは、死ぬ数の多いことですね。初日には箱の中から死んだハチが、「清掃ハチ」により次々と外に出されるので驚きました。巣箱に帰らないで、ハウスのビニールに止まったままで、死んでいるのも多かったですね。まもなく死因はわかりました。3～5年生きると言われる女王蜂以外は、ミツバチの寿命はわずか40日程度らしいのです。ここに巣箱が来てから約90日くらいですから、2回以上は世代が変わっていることになりますね。今でも巣箱の側で死んでいるのが毎日10匹位いますから、時々まとめてハウスの近くの「はちの墓」に埋めてやります。「お役目ごころうさんでした」というわけです。

この写真のハチは、働いているように見えますが、実はすでに死んでいました。受粉の最中に、彼の命の終わりの時が訪れたのでしょう。最後まで仕事をして、ピンピンコロリと死んでいった、大した奴ですよ。

「働きバチさん」のおかげで、受粉率がうんと上がり、私のイチゴ栽培は格段に向上しました。小さなハウスで、彼らの食料集めには物足りないだろうと思うのですが、よく働いてくれます。



最近は昼食のあとで、ハウスの中の椅子に座ったままで、ウトウトと仮眠をとります。「晴れ時々曇り」という天気が冬場は多く、日照によりハウス内の温度が大きく上下します。ミツバチの活動に大きな影響を与えるので、ハウスのサイドのビニールの開閉で調整しなくてはなりません。そのためには可能な限り、ハウスの中に居なくてははいけないので、ハウスの中で休むことにしたのです。それにしても、暖かい冬の光の中での「一睡の眠り」というのは、いい気分ですね。この心地よい眠りは、一年間の汗とストレスと引き換えに、わたしが手に入れた「至福のひとつとき」なのです。

そう言えば、ずいぶんと昔、私がまだ少年であった頃、学校の学芸会でミツバチに扮したことがありました。どんなことをしたのか全く記憶にありませんが、奇妙な服を着るのが嫌だったことだけは覚えています。

その日、私は冬の光に包まれたハウスの中で、「ミツバチの夢」を見ていました……



「今年は、えらい寒いけえ、雪が多いとこで百姓しとるもんは、エライと思うよ。  
その点ワシは温いトコにおるけえ恵まれとるよのう」